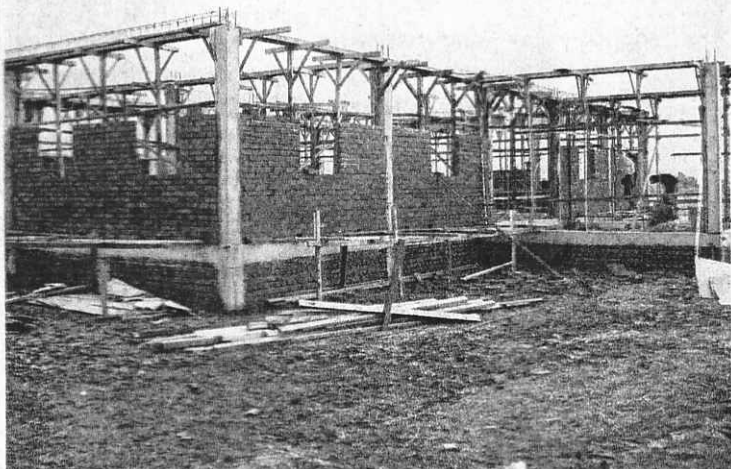


岡山大学医学部教官らのNPO

ミャンマーへ診療所

地域医療の核に

NPO法人「日本・ミャンマー医療人育成支援協会」(理事長・岡田茂岡山大名誉教授)が、ミャンマーで診療所の建設を進めている。昨年5月に同国を襲った大型サイクロン被害の復興支援が目的。5月中にも完成予定で、岡田理事長は「地域の核となる医療施設として活用してほしい」と期待している。(河内慎太郎)



サイクロン被害復興支援 月内にも完成

診療所は同国の最大都市ヤンゴンの南東約百キロにあるチタミヤイン地区に建設。支柱は鉄骨製で、壁はれんが造りの平屋(約百八十平方メートル)。診察室や健康相談室など六部屋と待合スペースがあり、同協会が集めた義援金約三百万円をかけ一月下旬に着工した。

大型サイクロンによる同国の犠牲者は約十三万人に上り、診療所の多くが洪水で流されるなどして利用できなくなった。昨年七月から今年二月まで四回、同国で医療支援活動を行ってきた同協会によると、現在は子どもという。

同協会の岡田理事長は「物的な支援だけでなく、現地の医療スタッフに対する治療のノウハウなども積極的に提供していきたい」と話している。同協会は、ミャンマーと学術交流を続けてきた岡山大学医学部の教官らが二〇〇六年、現地の医療支援へ設立した。

日本・ミャンマー医療人育成支援協会がチタミヤイン地区で建設中の診療所(岡田茂理事長提供)